

すか ん し な び あ か ん スカンジナビア館

昭和45（1970）年3月14日から9月13日まで大阪府吹田市の千里丘陵で開催された大阪万博において、デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、アイスランドの北欧5国が共同で出展したパビリオンがスカンジナビア館です。大阪万博終了後、現在の花川地区の宅地造成販売をしていた不動産会社、内外緑地（株）が譲り受け、7億1千万円かけて石狩市（当時は石狩町）に移転復元工事を行い、札幌冬期オリンピック開幕の前日である昭和47（1972）年2月2日にオープンしました。移築には「気候、風土が北欧に似ている本道に移し、国際親善にも一役買えれば」との意向もあったようですが、スカンジナビア館を含む一大レジャーエリア構想もありました。

スカンジナビア館は現在の藤女子大学花川キャンパス敷地のほぼ中央にあるテニスコートの場所に建てられていましたが、昭和51（1976）年に内外緑地（株）が経営破綻し閉館、昭和56（1981）年1月に藤学園に権利が移行した後、同年7月中旬までに解体処分されました。建物は36m四方の正方形で、地上2階、地下1階建てでした。外壁が特徴的で、直径52cm、厚さ1.2cmの塩化ビニールパイプを半割にした長い半円筒392本が交互に噛み合わせて縦に並べられていました。

万博会場での同館の玄関には、巨大な濃紺に塗られたコンクリート製の半円筒の塔が建てられており、中央の縦の割れ目の上部左側にプラス（+）、右側にマイナス（-）が打抜かれていました。これは同館のテーマが「産業社会における環境の保護」であり、「科学技術には必ずプラスとマイナスの両面がある」ことを示したものだからです。しかし、石狩への移築後は巨大な塔は設置されず、外観はテーマ性とアクセントを失った印象となりました。

同館の内部には北欧5カ国の産業経済、風俗、芸術、文化などを紹介する写真やバイキングの船、白夜のパノラマなどの展示や、54台のプロジェクターをフルに使ったスライドマルチビジョンで環境や産業の革新における良い面と悪い面などを伝えるエクスポホールのほか、映写ホールもありました。また、「バイキング」という名称のレストランでは北欧から招いたコック長が腕をふるい、館内には同じく北欧からのコンパニオンが開館当初は勤めていました。

（安田秀司）



万博当時（万博記念公園公式HPより）



移築後
（内外緑地株式会社「NEW SAPPORO CITY
札幌の中心地から10Km」より）

- （1）朝日新聞（北海道版）1972年1月6日記事。
- （2）北海道新聞1972年2月2日付「内外緑地株式会社」広告記事。
- （3）北海道新聞1981年10月15日記事。
- （4）大阪府日本万国博覧会記念公園事務所（ホームページ）万博記念公園（<http://www.expo70-park.jp/>）。